

平成 28 年度 「長野ひまわり幼稚園 自己点検評価と関係者評価」

1、平成 28 年度の重点目標

【教育目標】

「心の通うコミュニケーションを大切に、子ども一人ひとりの気持ちを受け止め、よりよいクラス経営をする」

2、評価の基準

- A <十分達成できた> 優れた（水準・内容・環境・対応）である。  
 B <概ね達成できた> 妥当な（水準・内容・環境・対応）である。  
 C <あまり達成できなかった> やや不十分な（水準・内容・環境・対応）で改善を要す。  
 D <ほとんど達成できなかった> 不十分な（水準・内容・環境・対応）であり一層の改善を要す。

(2017.03.31)

評価項目	自己点検評価の内容	自己 評価	関係者 評価
I、教育の内容	1 園の建学精神、教育理念、教育方針を理解している。	A	A
	2 幼稚園教育要領を理解している。	B	B
	3 教育課程の編成は適切である。	A	A
	4 保育計画の作成は適切である。	A	A
	5 保育環境は適切である。	B	B
	6 保育計画の点検評価は適切である。	B	B
II、保育の在り方と幼児への対応	1 健康と安全への配慮は適切である。	A	A
	2 幼児のみとりと理解は適切である。	A	A
	3 幼児への指導・関わりは適切である。	A	A
	4 教員相互の協力連携は適切である。	B	A
III、教師としての資質や能力・良識・適正	1 専門家としての能力・良識・義務は適切である。	A	A
	2 組織の一員としての在り方は適切である。	A	A
	3 保育に楽しみ、喜びを感じられる。	A	A
	4 身近なこと、社会情勢などを感じ取るアンテナ、感性は備わっている。	A	A
IV、保護者への対応	1 保護者への情報の発信と受信は適切である。	A	A
	2 園全体で協力、支援体制ができ、保護者対応は適切である。	A	A
	3 守秘義務の遵守は適切である。	A	A
	4 対応上のマナー、良識は適切である。	A	A
	5 クレームの対処は適切である。	A	A
V、地域の自然、人々とのかかわり	1 地域の自然、人々とのかかわりは適切である。	B	A
	2 小学校との連携は適切である。	B	A
	3 園施設、人材の地域への開放、支援は適切である。	B	A
VI、研修と研究	1 研修・研究への意欲・態度は適切である。	B	A
	2 教師としての専門性に関する研修、研究は適切である。	B	B

	3 遊具、教材に関する研修、研究は適切である。	A	A
	4 園内の環境に関する研修、研究は適切である。	B	A
	5 今日的課題（障害児ケア・危機管理他）に関する研修、研究は適切である。	B	B
	6 自らを高めるための学習は適切である。	A	A
VII、重点目標	1 重点目標の設定と実行	A	A
VIII、総 合		A	A

自己評価 A 評価 63% B 評価 37% C 評価 0% D 評価 0%

関係者評価 A 評価 83% B 評価 17% C 評価 0% D 評価 0%

### 3、関係者評価 （活動目標の達成度と成果）

#### I 教育の内容

幼稚園教育要領に基づき教育課程の見直しを行い小学校への接続に配慮した保育計画を立案実行。  
また、県補助金により全室にエアコンが配備され保育環境は大きく改善された。

#### II 保育の在り方と幼児への対応

フリー教諭の配置増によって一層きめ細やかな指導が可能となった。

園長、主幹教諭を中心に職員相互の連携が図られ園全体で園児情報を共有しきめ細やかな保育が行われた。

全領域でリスク管理マニュアルを整備し感染症対策、不審者対応訓練、避難訓練等が実施された。

#### III 教師としての資質や能力・良識・適正

教員としての意識は高く社会人としての良識も可とする水準です。

個人情報、園児対応等のコンプライアンスは厳守されていて事故やクレームの発生はありません。

#### IV 保護者への対応

保護者アンケートにおいて職員の保護者への対応に対する評価はA優れている 65% B 概ね妥当だ 28% C 一部改善を望む 7% D 評価できない 0%となった。大いに信頼され良好な関係が保たれている。

#### V 地域との関わり

近隣小学校との円滑な接続のための相互訪問、未就園児サークル、子育て情報の発信、子育て相談、園開放など広く地域との連携をはかり、理解と信頼を得たと評価する。なお課題であった近隣との防災防犯等の協力体制は地域の特性もあり進展が見られなかった。

#### VI 研修と研究

研修への参加は担任制であることから難しい状況である。各研修に代表者を参加させ、研修内容を他の職員に伝達講習により周知する方法とせざるを得ない。また行事等により研修に派遣出来ない場合もあり、職員個々の自己研鑽に負うところも大である。

#### VII 重点目標

保護者アンケートにおいて職員の子どもへの対応に対する評価はA優れている 63% B 概ね妥当だ 29% C 一部改善を望む 8% D 評価できない 0%となった。個々の園児の家庭、発達、健康等の情報を全職員が共有し保育にあたることができたと評価する。

#### VIII 総 合

保育計画に基づいた質の高い保育が実践され、目標とした心通うコミュニケーションによるクラス経営ができたと評価する。また保護者へ細やかな情報提供を行い相互に理解と信頼が構築された。

懸案であった園庭など施設についても少しずつではあるが改善が進んでいる。

#### 4、平成 29 年度への課題

29 年度は「幼稚園型認定こども園」移行の前段階として「施設給付型幼稚園」となることから、一層質の高い教育、保育の提供が期待される。加えて副園長と選任事務員を置くことで保育者が保育に専念できる環境となることに期待する。

#### 5、平成 29 年度の目標

##### 【園の目標】

「毎日クラスのどの子どもとも心の通うコミュニケーションを図り、子ども同士の自発的な関わりを促しながら、担当クラス毎の目標を達成する」

##### 【クラスの目標】

###### (もも組)

- ・一人ひとりが安心して過ごし笑顔がたくさんみられるクラスにする。

###### (ひまわり組)

・自分のことも、周りの人も愛せる子どもたちを育む。そのために保育者が愛情をもって子どもたちと関わっていく。

- ・感情をがまんせずに表現でき安心して過ごせるクラスにする。

###### (すみれ組)

- ・園生活で友だちとの関わりを深めていく中で楽しいことをたくさん見つけ、笑顔が絶えないクラスにする。
- ・周りへの感謝の気持ちを忘れずに過ごす。

###### (たんぽぽ組)

- ・相手への思いやり、感謝の気持ちを忘れず、一日一日を大切に過ごし笑顔や幸せそうな表情が溢れるクラスにする。

###### (すずらん組)

- ・一人ひとりの個性を大切に、友だちの思いを受け入れていきながら強くたくましく育っていく。
- ・毎日が笑顔で元気いっぱいのクラスにする。

###### (ゆり組)

- ・毎日家に帰るとき「一日楽しかった！」と笑顔で保護者に話したくなるような、楽しいことに溢れた日々にする。
- ・相手の気持ちを考え、寄り添えるような優しい心、思いやりの心を育んでいく。

###### (ばら組)

- ・年長ならではの「初めて」と「楽しい」気持ちを子どもたちと一緒に味わい「ばら組って楽しい」と感じられるよう一日一日を大切に過ごす。
- ・楽しいだけでなく、「やるときはやる」けじめを付けた活動を行う。